

Setouchi Vélo協議会 総会（岡山会議）に出席

（ブランディング）

11月7日（金）、岡山県岡山市で開催されたSetouchi Vélo協議会（※）総会（岡山会議）に出席するとともに、併せて実施されたトライアルライドと記念講演に参加しました。

トライアルライドには、広島県知事、岡山県知事、（一社）中国経済連合会長、四国経済連合会長などが参加し、同協議会が普及促進を図るe-bikeに乗車して、岡山県内の推奨サイクリングルートである「片鉄口マン街道ルート」（約16km）を走行しました。

総会では、ハンドオーバーセレモニーとして、前会長の広島県知事から新会長の岡山県知事へ、盾の引き継ぎが行われました。また、事務局からは今期の活動実績報告と次期活動計画が提案され、2027年5月に愛媛県で開催される「Velo-city2027」を見据えた取組方針が示されました。

また、記念講演では、国土交通省道路局から「次期自転車活用推進計画とサイクルツーリズム」について、（株）コイデルから「Velo-cityと先進地欧州の自転車走行環境」と題して講話をいただきました。

当機構では、協議会が掲げる「瀬戸内地域やその周辺地域を、環境に配慮した、安全で快適な、世界にも認められる『サイクリングの推進エリア』にしたい」という理念のもと、引き続き「サイクリングアイランド四国」のブランド確立に協力してまいります。

※ 構成団体24団体、参加団体64団体の計88団体で構成。

事務局：中国地方整備局、四国地方整備局、本州四国連絡高速道路（株）

（開催日）2025年11月7日（金）

（開催場所）ホテルグランヴィア岡山（岡山県岡山市）※トライアルライドは岡山県和気町及び赤磐市内。

（機構参加者）伊藤統括副本部長（※）、三好マネジャー ※トライアルライドに参加。



トライアルライド出発前の記念撮影



岡山知事による盾の引継ぎ



総会後の集合写真

四国「ジオツーリズム」セミナー（第2回）を実施

（ブランディング）

11月11日（火）、「四国『ジオツーリズム』セミナー（第2回）」を開催いたしました。本セミナーは、観光の主要な目的のひとつである「食文化」に焦点を当て、その成り立ちを四国の「ジオ（地質）」に深掘りし、食の面から「ジオ」を理解して楽しめる「ジオグルメ」の開発などにより、地域の食文化の新たな魅力を引き出し、誘客促進に繋げることを目的として開催しました。

セミナー前半では、ガストロノミーツーリズム研究所代表の杉山尚美氏を講師にお招きし、「地域のためのガストロノミーツーリズム」と題した基調講演を実施しました。杉山氏は、ガストロノミーツーリズムがインバウンドの消費拡大と地方誘客促進を担う極めて重要な要素であると指摘しながら、成功の鍵は、地域の気候風土、歴史、文化が育んだ「食文化」を深く体験できる魅力的なストーリーを持つプログラムの造成であり、そのためには、事業者が主体となり地域資源を徹底的に掘り起こし、地域独自の体験プログラムを開発・提供することが不可欠であると説明されました。

基調講演後には、高松国際ホテルの松原勉総料理長による、四国4県で生産された食材（阿波尾鶏、オーブ牛、愛媛真鯛、四万十ポーク等）を使用したコース料理・「ジオグルメ」の試食会を実施しました。

次ページに続く

料理の解説を挟みながら、一つひとつの料理が、各地域の気候風土、そして、その大地が形成された地質学的歴史を体感する貴重な機会となりました。

(開催日時) 2025年11月11日(火) 11:00～14:00

(開催会場) 高松国際ホテル(香川県高松市)

(登壇者) 基調講演: 杉山 尚美(ガストロノミーツーリズム研究所 代表)

※敬称略 「ジオグルメ」試食会: 松原 勉(高松国際ホテル 総料理長)

全体総評: 長谷川 修一(香川大学 特任教授・名誉教授)

(参加者数) 基調講演・「ジオグルメ」試食会 39名/報道関係者 5社6名

(機構出席者) 半井代表理事、桑村本部長、伊藤統括副本部長、神野副本部長 他5名



基調講演の様子



試食会の様子



試食会の料理

せとうち島塾 第17期に参加

(ブランディング)

11月12日(水)、本州四国連絡高速道路(株)が主催する「第17期せとうち島塾」に参加しました。開催場所の讃岐広島(香川県丸亀市)は、塩飽大工や採石業など豊かな文化・歴史を持つ一方で、少子高齢化・人口減少の著しい進行に伴い、様々な課題を抱えているという現状があります。この「せとうち島塾」(以下、島塾)は、これらの地域課題解決の一助となることを目指し、島の現状を学ぶフィールドワークや、島民の方々と協働で行う清掃活動などを通して、地域への理解を深める取り組みとして実施しており、今回は「海ごみ調査」と「登山道整備」を行いました。

「海ごみ調査」では、(一社)かがわガイド協会の海ごみリーダーの指導のもと、海岸を清掃しながら、漂着しているごみの種類などを調査し、グループ討議のなかで、ごみを回収するだけでなく、「ごみを出さない」ための仕組みづくりなどについて意見を交わしました。また、「登山道整備」では、標高213mの心経山を登りながら、登山者が歩きやすいよう落ち葉の清掃や枝の剪定を行いました。島民の方々からは「島の住民だけでは手が回らないからありがたい」とのお言葉をいただき、活動の意義を実感することができました。

今回の島塾への参加は、瀬戸内の未来を考え、観光に留まらない地域の活性化や人口減少等の課題解決、そしてSDGsの視点について改めて考える貴重な機会となりました。

(開催日) 2025年11月12日(水) (開催場所) 讃岐広島(香川県丸亀市)

(機構参加者) 伊藤統括副本部長、三好マネジャー



海ごみ調査で回収した海洋ごみ



登山道整備の様子



海岸清掃後の集合写真

「持続可能な観光」に向けたワークショップ2025 in 鳴門市 を実施

(ブランディング)

11月13日（木）、四国「持続可能な観光」推進ネットワークの活動の一環として、持続可能な観光推進の機運醸成を目的としたワークショップを徳島県鳴門市で実施しました。講師に、DAISETSUZAN EXPERIENCE 代表の荒井一洋氏をお招きして、徳島県、鳴門市役所、観光協会、フィールドワーク会場の鳴門公園の関係者に加え、地元の宿泊施設、飲食店、土産物店等の事業者など、多岐にわたる業種の皆様にご参加いただきました。

ワークショップでは、座学で「持続可能な観光」の基礎知識と重要性を学んだ後、フィールドワークを実施しました。「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の基準と照らし合わせながら、『マネジメント』、『社会経済』、『文化』、『環境』の4つの観点から具体的なアドバイスをいただきました。また、グループワークでは、フィールドワークで得た知見を基に、参加者それぞれの事業における課題や今後の可能性について活発な意見交換を行いました。

(実施日時) 2025年11月13日（木）10:00～17:00（会場）エスカビル・鳴門（徳島県鳴門市）
(フィールドワーク視察先) 鳴門公園 千畳敷展望台、渦の道、お茶園展望台
(参加人数) 28名（機構参加者）松本チームマネジャー、井上マネジャー



座学の様子



フィールドワークの様子



グループワークの様子

2025年度 四国ツーリズム創造機構 第2回意見交換会 を実施

(ブランディング)

11月19日（水）、徳島市で、協賛会員、顧問、徳島県内の会員の皆様との意見交換会を実施しました。意見交換会では、当機構から、今年度実施する主要事業の進捗状況について説明を行うとともに、四国各県、JR四国、日本観光振興協会から取組をご報告いただくなど、現状の課題や連携の方向などについて意見交換を行いました。

引き続き開催した交流会では、参加者同士の交流を深めながら、四国観光の更なる発展に向け協力して取り組むことを確認しました。

なお、第3回意見交換会を1月19日（月）に愛媛県で開催いたします。既に詳細をご案内しておりますが、協賛会員、顧問、愛媛県内の会員の皆さまからの多数のご参加をお待ちしております。



意見交換会の様子

(実施日) 2025年11月19日（水）
(実施場所) JRホテルクレメント徳島（徳島県徳島市）
(参加者) 意見交換会 46名、交流会 44名 ※機構職員を除く。
(機構参加者) 半井代表理事、桑村本部長 ほか8名
※代表理事は交流会のみ参加。



交流会の様子（代表理事挨拶）

四国ツーリズム創造機構 臨時理事会を開催

(ブランディング)

11月21日（金）、香川県高松市で当機構の臨時理事会を開催しました。

理事会では、今年度が最終年度となる「第5次四国観光交流戦略」（2021年～2025年）の現時点での総括を実施いたしました。その上で、次期計画となる「第6次四国観光交流戦略」（2026年～2030年）の草案について、理事の皆様にご審議いただき、ご承認をいただきました。

新戦略は、本理事会でいただいたご意見等を踏まえ、来年3月に開催する定期理事会で最終策定する予定です。

(開催日) 2025年11月21日（金）

(開催場所) あなぶきアリーナ香川 第2会議室（香川県高松市）

(出席者数) 理事及び監事11名 ※代理出席者含む。

(機構参加者) 半井代表理事、桑村本部長 ほか7名



意見交換会の様子

土庄町と小豆島町が「ベスト・ツーリズム・ビレッジ 2025」に認定 香川県知事への報告会を実施

(ブランディング)

この度、国連世界観光機関（UN Tourism）が観光を通じた持続可能な地域づくりに取り組む優良地域を認定する「ベスト・ツーリズム・ビレッジ^(※) 2025」において、土庄町と小豆島町が中四国で初めて認定されました。この2町の同時認定を受け、11月25日（火）、香川県庁で両町の町長らによる香川県知事への報告会が実施されました。

報告会では、土庄町岡野町長、小豆島町大江町長、（一社）小豆島観光協会堀川会長から、両町が「島はひとつ」として連携して推進してきた「持続可能な観光」の取り組みが評価されたことについての報告があり、香川県池田知事からは、小豆島の「持続可能な観光」の取り組みが地元産業の維持につながる好循環を生み出しているとの賛辞が送られました。また、当機構からは半井代表理事が同席し、土庄町、小豆島町両町の認定へのお祝いの言葉と今後のさらなる発展への期待をお伝えしました。

※ 持続可能な開発目標（SDGs）に沿って、観光を通じて文化遺産の保全や持続可能な開発に取り組む優良地域を認定するプロジェクト。応募には、①人口が15,000人以下の地域、②農業、林業、畜産業、漁業等の第1次産業を行っている、③地域コミュニティの価値観やライフスタイルを保持する取り組みを行っている、の3要件を満たす必要がある。国内ではこれまで12地域が認定。

(実施日) 2025年11月25日（火）13:00～13:30

(実施場所) 香川県庁11階第3応接室（香川県高松市）

(報告会内容)

- ・ 土庄町、小豆島町における取り組みの報告
- ・ 香川県・池田知事からのお祝いの挨拶
- ・ 半井代表理事からのお祝いの挨拶

(登壇者) ※敬称略

香川県	知事	池田 豊人
土庄町	町長	岡野 能之
小豆島町	町長	大江 正彦
(一社) 小豆島観光協会	会長	堀川 満弘
(一社) 四国ツーリズム創造機構	代表理事	半井 真司

(機構参加者) 桑村本部長、松本チームマネジャー ほか2名

(参加メディア) 5社



報告の様子



記念撮影の様子

Greater WEST JAPAN連携会議を開催

(ブランディング)

11月28日（金）、西日本の広域連携DMO4団体（関西観光本部、山陰インバウンド機構、せとうち観光推進機構、当機構）による「Greater WEST JAPAN連携会議」を、鳥取県米子市で開催しました。

会議では、共同実施を予定しているセールス・プロモーションを中心に協議しました。来年2月2日に豪州シドニーで開催される「Japan Roadshow 2026」への出展が決定したことを受け、ブースでのセールスコールの方法、現地旅行会社への営業体制等について具体的な意見交換と調整を行いました。また、共通のランディングページ（LP）「Greater WEST JAPAN」を継続運用し、引き続き共同での情報発信に努めることを確認しました。

大阪・関西万博は閉幕いたしました。4DMOでは、IR（統合型リゾート）の開発なども視野に入れ、西日本および四国への誘客・周遊促進に向け、引き続き広域連携のもと、協力して取り組んでまいります。

- （開催日）2025年11月28日（金）
- （開催場所）米子コンベンションセンター（鳥取県米子市）
- （機構参加者）桑村本部長、伊藤統括副本部長
神野副本部長、清水CMO



会議の様子

2026年度観光素材説明会を開催

(マーケティング)

11月17日（月）、JR大阪駅直結のホテルグランヴィア大阪で開催された「2026年度観光素材説明会」に参加しました。本説明会は、関西圏の旅行会社を対象に、西日本エリアの観光地やJRを利用した旅行商品造成と販売促進につなげるため、JR西日本、JR四国、北陸三県誘客促進連携協議会、DISCOVER WEST連携協議会、京都・大阪・神戸観光推進協議会、当機構が共同で開催しています。

当機構からは、四国4県とJR四国に関する観光素材について説明を行いました。また、2026年度においては、JR西日本とJR九州エリアにおいて、プレ・アフターキャンペーンを含む計5つのデスティネーションキャンペーン（※）が開催される予定であることから、これらを契機に旅行事業をさらに盛り上げる意向が示されました。

説明会後の懇親会では、西日本各地の食材を取り入れた食事を囲みながら、旅行会社の皆さまと活発な意見交換が行うことができました。

- （開催日時）2025年11月17日（月）
- （開催場所）ホテルグランヴィア大阪（大阪府大阪市）
- （機構参加者）桑村本部長、別宮マネジャー

※ デスティネーションキャンペーンとは、JRグループ6社、地方自治体、観光事業者などが一体となって実施する、国内最大級の大型観光キャンペーン。開催期間中（通常3ヶ月間）に地域の食材・イベント・観光資源の磨き上げを集中的にPRします。



説明会の様子

World Travel Market (WTM) 2025に出展

(マーケティング)

11月4日(火)から6日(木)の3日間、イギリスのロンドンで開催された世界最大級のBtoB旅行博「World Travel Market 2025」(通称: WTM)において、JNTO(日本政府観光局)が開設するJAPANブースに出展しました。

WTM期間中、イギリスをはじめ欧州・米国を中心とした世界各国の旅行会社22社と商談を実施いたしました。商談では、ゴールドルートから四国への誘客促進を図るべく、四国へのアクセス、多様な観光コンテンツ、モデルコース等の情報発信に注力しました。

今回の商談では将来的な商品造成などが見込める事業者が16社ございました。今後もアフターフォロー等を継続して実施し、海外からの四国への誘客促進に繋げてまいります。



JNTOのJAPANブースの様子

(実施日) 2025年11月4日(火)～6日(木)

(開催場所) ExCel London (イギリス・ロンドン)

(機構参加者) 竹内チームマネジャー

(商談先) 9カ国・地域22社。商談先の国・地域は以下のとおり
イギリス、ドイツ、イタリア、ベルギー、ノルウェイ、スウェーデン
アメリカ、カナダ、サウジアラビア



商談ブースの様子

アドベンチャートラベル国内ネットワーキング会議に参加

(マーケティング)

11月17日(月)、18日(火)の2日間、広島市で開催されたJNTO主催の「アドベンチャートラベル国内ネットワーキング会議」に参加しました。

1日目は、(株) Adventure Area Consulting 代表取締役の國谷裕紀氏から、アドベンチャートラベル(以下、AT)の定義や基礎的な知識について講話いただくとともに、DAISETSUZAN EXPERIENCE 代表の荒井一洋氏から、「ATとサステナブルツーリズム」をテーマに講話いただき、ATを催行する上で、地域固有の文化体験などによる特別感と魅力的なストーリー性が、観光客にその地域の「ホンモノ」を届けるために重要であることや対象者を理解した上でAT体験を創出するガイドの存在が旅の価値を高めること、さらに、インバウンド誘客促進にはサステナブルな旅の提供が欠かせないことを再認識することができました。

2日目は、(一社) Hiroshima Adventure Travelの現地ガイドによる、「sokoikoピースサイクリングツアー」に参加しました。原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑、赤十字原爆病院などを自転車で巡りながら、被爆地・広島復興を学ぶことができました。ガイドの「物語の語り手」としての役割、すなわちその場所で起きた真実のストーリーを伝えながら、原爆のマイナス面だけでなく、今日まで復興を遂げた広島の姿をプラスに伝えるという姿勢が特に印象的でした。その後のワークショップでは、ツアー体験を基に意見交換を行い、「『ピース(平和)』テーマが明確で、ガイドの想いや、被爆地が持つストーリーに沿って巡ることができ、観光客にとって非常に印象に残るツアーとなる」という肯定的な意見が挙がりました。一方、「実体験や想いの面から、ガイドの質により差が出る可能性がある」という課題も指摘されました。これらの課題を踏まえ、伝えるべき目的を明確にするためにもテーマとストーリーを設定をしっかりと固めた上で、ガイドの個性を反映できるツアーとすることが、観光客への特別感の提供に繋がるという重要性を改めて確認しました。

今回の会議での体験や意見交換の内容などを反映しながら、引き続き、四国での魅力的な旅行体験が提供できるようATガイドの育成などに取り組んでまいります。

次ページに続く

(実施日) 2025年11月17日(月)、18日(火)

(実施場所) TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前 カンファレンスルーム5E (広島県広島市)

(講師) (株) Adventure Area Consulting 代表取締役 國谷 裕紀 氏

DAISETSUZAN EXPERIENCE 代表 荒井 一洋 氏

(参加者) 国内で活動しているAT実務者(DMC、DMO、事業者、ガイド等) 計15名

(機構参加者) 長山マネジャー



講演の様子



フィールドワークの様子



参加者一同

タイ旅行博 第17回FITフェア (Visit Japan FIT Fair # 17) に出展 現地旅行会社セールスを実施

(マーケティング)

11月21日(金)から23日(日)の3日間、タイのバンコク市内で開催されたタイ市場で最大規模の訪日旅行フェア「第17回FITフェア (Visit Japan FIT Fair # 17)」に、四国4県のご協力のもと、JR四国と当機構で四国ブースを出展しました。ブースでは、訪日旅行を検討している来場者に対し、四国の魅力を直接伝えました。また、出展中の現地旅行会社からの四国への送客に関する相談対応や、JNTOバンコク事務所の方々との交流機会もあり、四国を効果的にPRすることができました。

フェアに続いて、24日(月)と25日(火)の2日間には、現地旅行会社を訪問し、市場の動向や各社のニーズ、四国観光の課題についてヒアリングを実施いたしました。その際、四国の最新情報を提供するとともに、今後の連携強化について協議を行いました。また、帰国後のフォローアップとして、会場およびセールス先で名刺交換を行った旅行会社のアドレス宛に、メールマガジンの配信を実施いたしました。



ブースの様子

【第17回FITフェア概要】

(開催日) 2025年11月21日(金)～23日(日)

(開催場所) サイアム・パラゴン (タイ・バンコク)

(当日参加団体) 徳島県、香川県、JR四国、当機構

※愛媛県・高知県からはパンフレット等の提供にご協力いただきました。

(機構参加者) 清水CMO、別宮マネジャー



舞台イベントの様子

【セールス概要】

(実施日) 2025年11月24日(月)、25日(火)

(訪問先) 現地旅行会社 8社。訪問先は下記のとおり。

Compax World/Asahi Travel Service、Siam Orchard Group.,Ltd.

Big World Holiday/ Victory travel Center Co.,Ltd.

SKT Holiday Co.,Ltd.、Jubile Travel Co.,Ltd.

QUALITY EXPRESS(Mice)、Season Holiday.,Ltd.、Doso Travel Co.,Ltd

(機構参加者) 清水CMO、別宮マネジャー



セールスの様子

令和7年度四国の魅力を大公開！セミナーに参加

(マーケティング)

11月26日(水)、四国運輸局主催の「令和7年度 四国の魅力を大公開！セミナー」が開催されました。本セミナーは、海外への観光プロモーションを担う日本政府観光局(JNTO)の職員を対象に、訪日旅行の目的地として四国を選んでいただくことを目的に、四国の魅力や観光資源への理解を深めていただくために実施したものです。

セミナーでは、当機構から観光情報やモデルコースの紹介を、四国運輸局からグルメ情報を、また、JR四国からは四国の魅力を楽しむための周遊券「All Shikoku Rail Pass」の活用法などをご案内し、四国に住む私たちだからこそ伝えられる、よりリアルな四国の魅力をお伝えしました。

セミナー終了後実施したアンケートでは、「有益な情報を多く得られ、大変有意義だった」、「楽しく学べたので、プライベートでも四国に行きたくなった」といった感想のほか、次回の開催を望む声も寄せられるなど、非常に満足度の高いセミナーとなりました。

引き続き、四国運輸局やJNTOとの連携を強化し、四国への誘客促進に努めてまいります。

(開催日時) 2025年11月26日(水) 16時~17時 ※オンライン開催

(参加者) JNTO職員 86名(本部、海外事務所含む)

(発表者) 四国運輸局、JR四国、当機構

(機構参加者) 発表者：竹内チームマネジャー



機構発表の様子



発表者一同



セミナーのチラシ

今月のオウンドメディア情報等

(タイ旅行博「Visit Japan FIT Fair # 17」への出展を経て)

(清水CMOからの情報)

今月は、タイで開催されたJNTO主催の訪日旅行フェア「Visit Japan FIT Fair # 17 (以下、FITフェア)」への出展と、これに併せて実施した現地旅行会社8社へのセールスを踏まえて、タイ市場について考察します。

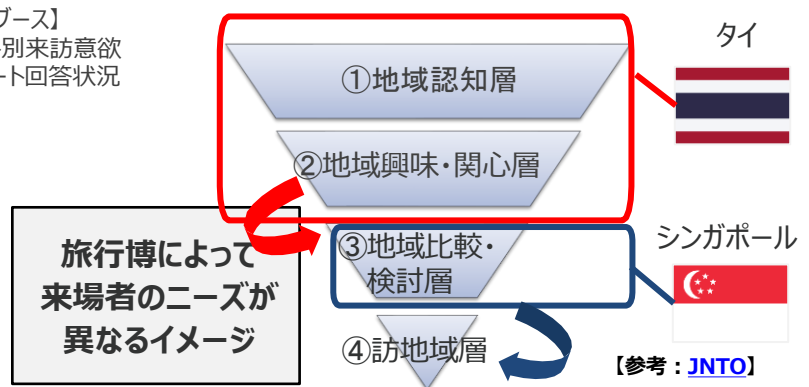
【FITフェア出展で感じたニーズ等】

- FITフェアは、タイ・バンコク市内の高級ショッピングモールであるサイアムパラゴンで開催。
- 来場者数は、2023年が約47,000人、2024年が約62,000人と好調に推移。
- 一方、今年度の来場者は、体感として少ない印象（12月10日現在、主催者発表なし）。
- 四国ブースの来場者から、「四国へのアクセス」「来訪オススメ時期」の問い合わせが多い印象。
- ブースで行った来訪意欲アンケートの結果や、8月に出展したシンガポール旅行博「NATAS HOLIDAYS 2025」と比較した場合の感触は下記のとおりです。

【四国への来訪ファネル比較イメージ】



【四国ブース】
スポット別来訪意欲
アンケート回答状況



当機構では、昨年度に引き続いての出展でしたが、来場者へのプロモーションだけでなく、現地旅行会社からの四国に関するルート相談を直に受けることができたり、JNTOバンコクとの情報交換しやすい関係が構築できたりと、FIT層への訴求以外の面でも効果も大きく感じられ、継続的に出展していくことの必要性を感じました。

【現地旅行会社セールスで感じた四国来訪ニーズ等】

<課題感>

- 日本旅行費用の高騰により、安価な中国市場へシフトする傾向。
※JNTOバンコクからも同様の指摘あり。
- タイでは様々な料理をシェアする文化が根強い。
昼食であっても、うどんなど単品料理だけでは物足りない傾向。
- インセンティブツアーでの見学希望に関して相談先や手配の窓口が分からない。

四国4県周遊のパッケージプランを
通年販売している旅行会社も有り

<来訪ニーズ>

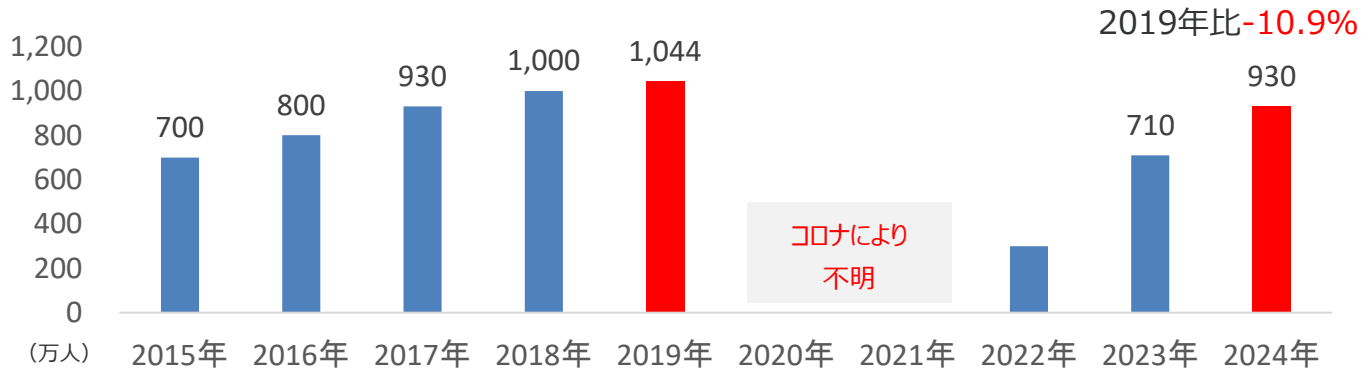
- 桜や紅葉などの季節感の情報に加え、雪遊びが楽しめるエリアもある点を紹介すると好感触であった。
- 都会では得られない「人が少なく、落ち着いた場所」や「自然」、「ゆったりとした観光」が好まれる。
- インセンティブツアーでは、会社・工場見学など視察的な要素も求められている。

<想定されるターゲット層>

- ① 訪日リピーター層：主要な日本の有名観光地を訪れており、質と快適性（良質なホテル、地元の特別な料理など）を重視し、ゆったりと長めの滞在を好む年配層。
- ② インセンティブツアー層：新しいエリアを紹介したい動機が旅行会社にもあり、四国提案要素は大きいにある。

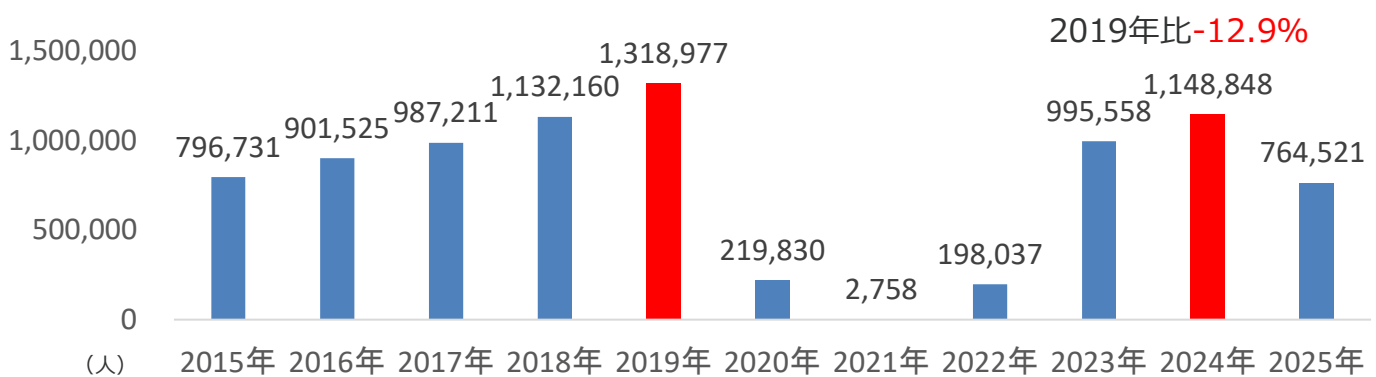
訪日リピーター層とインセンティブツアー層は、四国誘客の要素は有り。

【参考データ】タイ人の海外旅行者総数 出所: タイ観光・スポーツ省 (MOTS) を元に集計



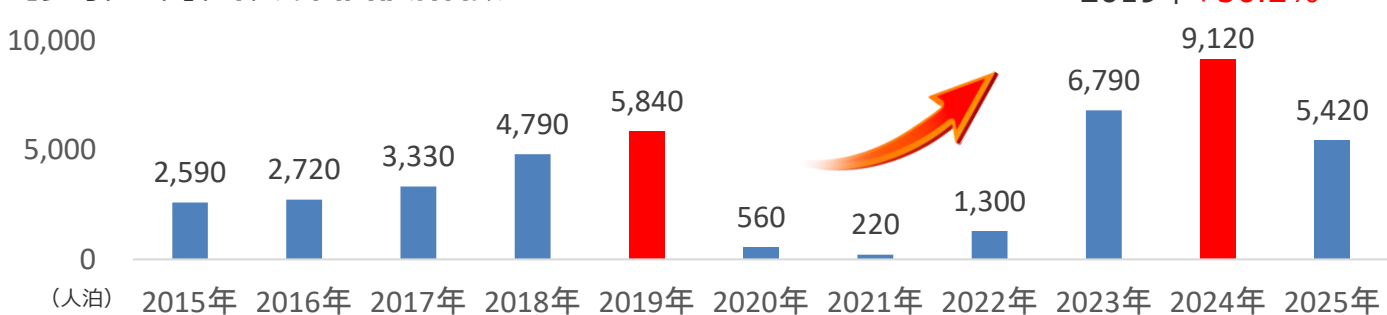
- タイにおける海外旅行者総数は、コロナ禍前の2019年を上回っていない。
- 要因には、コロナ禍の経済状況の悪化（具体的には家計債務が一般的な中間層を圧迫。）の影響が挙げられる。
- 債務負担の少ない富裕層が旅行を楽しむ一方で、一般的な中間層は旅行を控えるか、より安価な近場の観光地（後述する中国など）を選択している傾向。

【参考データ】タイ人の訪日旅行者数 出所: JNTO



- タイ国内の景気悪化に連動して訪日旅行も減少しており、コロナ禍前に中間所得層の利用が多かったゴールデンルートなどを回る安価な団体ツアー需要減少の影響が表れている結果とも推測される。
- 訪日旅行者数が減少する一方で、訪日旅行者1人当たりの旅行支出額は、131,457円（2019年）から、197,305円（2024年）と増加している。
- 上記のとおり、円換算での支払額が「1.5倍」に急増してはいるものの、タイ人の実質負担額（バーツ換算）の伸びは「1.2倍」に留まっており^(※)、実態は来日層はお得感を感じて訪日しているものと推測される。
※為替が2019年比で約3～4割の円安バーツ高

【参考データ】タイ人の四国宿泊者数 出所: 当機構DMO



タイ市場が冷え込む中、四国宿泊者数はコロナ前を大きく上回っている。

【参考データ】コロナ禍前と近年のタイ人の海外旅行者の変化 出所：JNTOおよび各国政府統計データを元に集約

訪問先	2019年	2024年	増減の主な理由・要因
ラオス	2,160,300人	1,215,553人	中国ラオス鉄道開通で観光客は実質増加している可能性有り。 (2019年数値は国境貿易を含む数値)
ミャンマー	1,924,581人	約80,000人	内戦・政情不安によりレジャー需要は激減。
マレーシア	1,884,306人	1,639,211人	鉄道利用の陸路国境越えは人気だが、物価高で頻度は低下。
日本	1,318,977人	1,148,848人	円安効果はあるが、航空便（特にLCC）の復便遅れとチケット代高騰。 タイ中間層の経済力低下も影響。ビザ免除による中国需要増加。
中国	870,526人	約1,200,000人	2024年に実施されたビザ免除の効果絶大。格安ツアーの人気。
韓国	571,610人	約360,000人	韓国渡航に必要な電子渡航認証制度「K-ETA」の入国拒否多発。 「#BanKorea」運動によるイメージ悪化が影響している可能性有り。
シンガポール	528,547人	約404,000	コンサート需要で一時急増、滞在費の高騰が来訪を抑制。
ベトナム	509,802人	418,054人	中国へのシフト、国内旅行との競合。
カンボジア	466,493人	不明	カジノやビジネス往来が激増。
台湾	413,926人	約400,000人	【現状維持】ビザ免除延長により健闘したが、中国本土への渡航解禁により「中華圏体験」の需要が分散。

タイ旅行会社の中国格安ツアー例

バンコク発～中国ラオス鉄道を利用した団体ツアー



中国ラオス鉄道
車内はフルフラット
シートなども存在。



9,900パーツ→約48,500円
(12月時点、1パーツは約4.89円)

今回、FITフェアへの参加、タイ旅行会社セールス、データによるタイの旅行市場をご紹介いたしました。タイ旅行会社セールス中の会話のなかでは、「価格による中国旅行は一過性」との意見も伺っており、今回ご紹介した想定ターゲット層においても、特に「①訪日リピーター層」などは、物価や為替など価格の影響を受けにくい傾向にあり、また、実際として四国を宿泊するタイ人はコロナ禍前を超えて、増加して推移しています。引き続き、タイ市場に対しては、「ゆったりとした旅行ができる観光地」として「四国」を、B to B, B to C の両輪でPRに取り組んでまいります。

代表理事の主な動静

- 11月 6日 (木) 定例会議・推進会議 (当機構の会議)
- 11日 (火) 四国「ジオツーリズム」セミナー第2回
- 17日 (月) 定例会議・推進会議 (当機構の会議)
- 19日 (木) 第2回意見交換会
- 21日 (金) 臨時理事会
- 25日 (火) 土庄町・小豆島町「ベスト・ツーリズム・ビレッジ2025」認定に伴う香川県知事報告

後援・協賛等

事業名	主催	期間	備考 (公式サイト等)
第18作 「新 鶴姫伝説～鎧に白い花を～」	坊っちゃん劇場	2025年4月29日 (火) ～2026年3月 予定	https://www.botchan.co.jp/production.html
デジタルスタンプラリー「四国巡りんく」	本州四国連絡高速道路 (株)	2025年5月1日 (木) ～12月31日 (水)	https://www.love-setouchi.jp/megulink2025/
四国コンテンツ映像フェスタ2025	四国総合通信局	2025年6月6日 (金) ～12月 (予定)	https://www.shikoku-ictcon.jp/scvf/

12月以降の主な予定表

区分	12月	1月	2月	3月
マーケティング (国内)	ANA誘遊四国キャンペーン2025 (9月～3月)			
マーケティング (国際)	冬のぐるっと四国めぐりフェア (12月12～14日/京都)	ATガイドネットワーク構築 (12月22日/高松市)	四国観光物産展 (2月7～8日/明石市)	Japan Roadshow (2月2日/オーストラリア)
ブランディング		四国「持続可能な観光」 先進地視察 (2月2、3日/小豆島)	四国「持続可能な観光」 推進ネットワーク 第12回会議 (2月19日/三好市)	豪州旅行会社向けウェビナー (2月18日/オンライン)
			JNTOマーケット研究会 (3月13日/オンライン)	Greater WEST JAPAN 連携会議 (3月6日/広島市)
		第3回意見交換会 (1月19日/松山市)		理事会・臨時社員総会 (3月24日/高松市)

(一社) 四国ツーリズム創造機構

事業推進本部 ブランディングチーム 神野、藤井

TEL : 087-813-0431 FAX : 087-813-0312

Facebook <https://www.facebook.com/t.shikoku>

Instagram <https://www.instagram.com/shikokutourism/?hl=ia>



SHIKOKUTOURISM